

～天空の古墳群～ まつざわこふんぐん 松沢古墳群

市指定有形文化財（史跡）

赤湯地区東部の松沢の赤石山南斜面上部、標高 340～380m のところで 2 基の古墳が発見されています。何しろぶどう園と松林にまたがっているため何基あるのか不明ですが、他にも存在すると思われます。このうち、1 号墳は昭和 31 年に発見され、箱形の石棺から古墳時代後期（6 世紀）の土師器の埴・直刀破片・鉄鏃・丸石がそれぞれ 1 点ずつ見つかっています。石棺の周辺は石英粗面岩の破片で積まれていました。石棺は東西に長く、東部は二重壁で頑丈に作られており、頭位は東とみられます。2 号墳は昭和 52 年発見され、東西に長い箱形石棺を石英粗面岩破片を積んで墳丘としていました。やはり東部が二重壁でしっかり作られ、東部頭位です。よく見ると東部から中程まで蓋石が残り、合掌形をしています。

2 基はスキーのジャンプ台のような急斜面に造られ、古墳の立地としては珍しい地形選択をしています。山肌を覆う石英粗面岩で石棺を作り、積んで墳丘としています。積石塚古墳です。日本では山梨県などにみられる数少ない古墳で、源流は朝鮮半島にあります。渡来朝鮮人の墓とみられます。また、石棺の蓋石が合掌形をしており、これもまた珍しい特徴です。福島県にも合掌形石室の古墳はありますが、土盛りの古墳です。副葬された出土品から 6 世紀前半の後期古墳とみられます。また頭位を東にした正東西方向に据え付けられた石棺は春分の日太陽光線と一致します。



▲蒲生田山 1 号墳

この古墳から南を遠望すれば真っ正面に米沢盆地の弧丘・戸塚山があります。戸塚山山頂には 5 世紀後半の中期古墳があり、米沢盆地の支配者の墓地を望んでいることとなります。

戸塚山山頂には全長 54m の前方後円墳があり、5 世紀中頃に置賜に君臨した王墓とみられます。王の

死後、次々と小規模な古墳が 3 基造られます。これは 5 世紀後半の出来事です。この時期は、米沢盆地に優れた技術や文化が伝えられ、初めてカマドの付く家が出現し、機織りが盛んに行われ、鉄刃を装着した鍬や鋤で開いた水田が広がった時期です。

古墳時代中期、5 世紀は漢字や仏教・製鉄技術・機織り技術など多くの技術や文化が、朝鮮半島や中国大陸から伝えられた時期です。朝鮮人や中国人が渡来し、優れた技術や文化を伝えたことで古代日本が大きく変わり、置賜も変わりました。松沢古墳群は、そのような時期の直後に渡来朝鮮人によって築かれました。古墳群の場所が、中近世の鉱山がある山地という点を考慮すれば、金銀銅などの探鉱技術集団（渡来人）の墓である可能性が高いことがわかります。目もくらむような非常に険しい山地に立地する天空の古墳群は合掌形石室をもつ積石塚古墳で、多くの人々に注目されています。

南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄

平成 25 年 12 月 1 日号 市報なんよう掲載